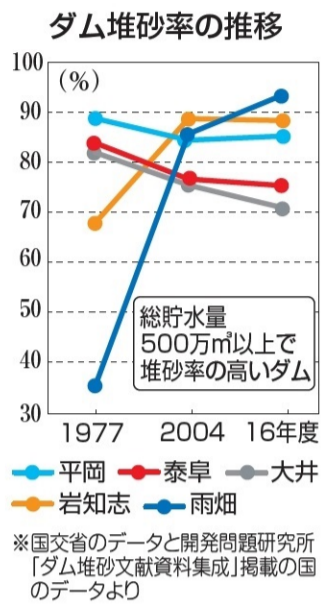


「完成10年で3分の1埋まる」

堆砂の速度想定外

雨畑ダム、日軽金回答



「現状に責任は。管理者としての責」

「建設当初ある程度予想していたが今のよう

サクラエビ 異変

任があると認識していうなスピードは想定していなかった。ダム完

雨畑ダムの堆砂問題で、開発問題研究所が1985年に発行した「ダム堆砂文献資料集」によると、国が発表したデータで1977年度の同ダムの堆砂率は35・36%だった。2016年度時点で堆砂率が上位5位までのダムについて、過去の堆砂率を追跡調査すると、同ダムの堆砂が急激に進んだ様子が判明。同ダムを管理する日本軽金属蒲原製造所(静岡市清水区)は6日までに静岡新聞社の取材に対し、堆砂が進み水害の恐れがある同ダムについて「堆砂の速度が想定外だった」と答えた。



93.36%の堆砂率でダム湖がほぼ埋まった状態の雨畑ダム。左側がダムの堤体部分=8月上旬、山梨県早川町(本社ヘリ「ジェリコ1号」から)

成10年で総貯水量の3分の1が埋まった」

「いつばいになれば行政に土砂撤去を要請する考えだったか。」

「『いつばい』にならないよう除去を実施してきた。関係各所の協力も頂きながら検討し、地元の不安を払拭したい」

「堆砂の除去費用は積み立てていたか。」

「具体的な除去費用の額については経営に

「ダム撤去の考えは。」

「土砂の除去・移動に加え、新たな対策は関係各所の協力を頂きながら検討する」

「土砂除去のスピードを速めないのか。」

「(出資する採石業者の)ニッケイ工業が砂利採取業として許可されている範囲内で搬出している。搬出量増加のためのさらなる土砂の引取先や置き場の確保は現状難しい」

「新たに判明したダムの下流でのコンクリートくずの不法投棄について。」

「警察や山梨県が調べている。コメントは差し控える」

(「サクラエビ異変」取材班)